

第33号
Vol.11-3
2015年1月1日

Dari Kuching

アジア地域福祉と交流の会 (Asia Community Service & Exchange) 広報紙

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-30-9 社会福祉法人清泉内

TEL: 03-3426-2323 FAX: 03-3706-7242 HP: <http://ace-jps.com/>

現地事務所: 204, 2nd floor, Methodist Apartment, No. 17, Hose Lane, 96000 Sibul, Sarawak, MALAYSIA.

発行人: 中澤 健 編集人: 中澤 和代 Tel.Fax: +60-84-31-0757 E-mail: info@ace-jps.com ; gkenkn@gmail.com



大自然のなか楚々と咲くラン (Mithibahの門庭にて)

撮影者 中澤 健

新年、おめでとうございます。
大変なことも多かった2014年でしたが、心に灯がともったニュースもありました。ひとつは、6月のサッカーワールドカップです。コートジボワール戦に負けた後、無念の思いを呑み込みながら、観客席のゴミを拾う日本人サポーターの姿が、世界中のTVに映りました。試合の勝ち負けとは別の形で心をつかまれました。マレーシアではこのサッカー試合は放映されませんでしたが、ゴミを集める姿は世界に報道されたのです。

大事な試合を落とすとサポーターがゴミを投げてスタジアムを去ることが多いのに、日本人サポーターは意気消沈しながらもゴミを拾い集めてからその場を去ったと各国メディアが報じました。何と豊かな日本人の姿でしょう。このニュースが、どれほど異国で苦闘する人々に勇気と希望を与えたか分かりません。自分もこのサポーターと同じ日本人。誇らしい気持ちになりました。無念の涙を心に仕舞って示した行為に、世界中が感動し拍手を送ったのでした。

もう一つはパキスタンのマララさん。17歳の彼女の信念と勇気にノーベル平和賞。彼女のスピーチに心が洗われました。どんどん心が貧しくなり、格差が広がり、きな臭さも増している現代、まだ希望はある！若者の「自制心と勇気」が、平和で明るい時代を創るに違いありません。PCは要らない、本とノートと鉛筆が欲しい！と訴えたマララさん。がんばれ！

世界の人々の心をつかんだ日本人サポーターのみなさん、そしてマララさん、有り難う！(健)

サラワクの山奥に電気とインターネットが届けるもの

井口 次郎
(コタキナバル在住)



電気がきた奥地のロングハウス

ります。その中でも、最近とくに興味深く感じているのが、マレーシアサラワク大学農村情報学研究拠点が実施する、山奥の村々を対象とした電化・情報化支援事業です。サラワク大学は1990年代後半からe-Village(イービレッジ)と

衛星放送受信機、子供らのためのノートパソコン、冷蔵庫、電気コンロなど調理用の電気製品、ラジオ、グラインダーや電気鋸や木工機械など様々な電気製品が利用されています。また、サラワク大学は、インターネットを介したeコマース(電子商取引)を振興すべく、香港とフランスの業者を買い手とした、村人による手工芸品や半製品の開発・製造を支援しています。

Dari Kuching読者の皆様、はじめまして。マレーシアのコタキナバルに暮らして13年近くになる井口と申します。コンサルタントとしてマレーシア内外で自然保護や農村開発に関わる仕事をしております。

私はこれまで、在コタキナバル領事事務所(旧日本国総領事館)の委託を受けて、サラワク州やサバ州の生活支援事業のための調査を行ってきました。これは、日本の在外公館が実施する「草の根・人間の安全保障無償資金協力」(以下「草の根無償」)によるもので、国際及びローカルNGO(非政府団体)等が実施する比較的小規模なプロジェクト(原則1,000万円以下の案件)を対象としています。

私は事業の現場を訪れ、協力要請がきちんとしたものであるか事前に調べたり、事業が順調に行われているか確認しています。私が中澤さんご夫妻と知り合えたのもMuhhibahセンターに「Muhhibah」という名前がつく前の2007年、センター活動用の車両が草の根無償により供与され、その事前調査のためにシブに派遣されたことがきっかけです。

在コタキナバル領事事務所がサラワク・サバ州で支援してきた草の根無償事業には様々なものがあ

称した事業を行っています。これは、サラワク州のバリオ村を皮切りに、サラワク・サバ州の6つの僻村を対象に、インターネット接続を可能にするテレセンターや村内の給電設備建設とそれらの活用を支援するものです。日本側はこのうちの4カ村について、太陽光発電設備によるテレセンターへの給電や、小規模水力発電などによる住居への照明設備の建設を支援してきました。

それまではほとんどが闇に包まれていたロングハウスが、今はこうこうと灯りに照らされています(写真)。いくつかの対象村ではかつて電気はディーゼル発電機によるものしかなく、ディーゼル購入費は現金収入の少ない僻村住民には大きな負担でしたが、それも軽減しました。それまで女性達は農作業の時間を削って、手工芸品製作を昼間に行っていたのが、夜間に行えるようになりました。若者達も、狩猟用の吹き矢の製作を夜に行えます。なにより、多くの村民とくに年配の村民にとっては自分の家の中に電灯がとるといのは初めての経験で、とても喜んでいます。テレセンターでウェブを閲覧する子供達には、外国人の私などもう珍しいのか、あまり関心も示しません。テレビ、

更に、予想もしていなかった変化も起きています。ブナン族が暮らすラマイ村では、発電量の比較的大きい小規模水力発電により村全体に給電がなされた結果、都市部に移住していた村民が戻ってきたり、より良い住環境を求めて他村から移住してくる人々も多く、村内で住居の建設ラッシュが起きています。また、テレセンター建設が行われたバケララン村の選挙区では、2011年のサラワク州議会の選挙で、長年選出されてきた与党バリサンナショナルの候補者ではなく、野党PKRの候補者が勝ちました。このことには、テレセンターによるインターネット接続をはじめ同地域の村民達の情報環境が大きく変化し、それにより彼らの政治意識が変化したことも無関係ではないという声も村人から聞かれました。

草の根無償の支援を受け、サラワクの遠隔村にも電化とインターネットにより世界に向けての「窓」が開かれました。村人達はその窓を通じて何を見るのか、また彼ら自身が窓を通じて何を世界に向けて伝えていくのか、そこには支援側の意図をこえた大きな可能性があるように感じられました。草の根無償事業(表示URL以下)
http://www.kotakinabalu.my.enb-japan.go.jp/ja/culture_j.html

次男と私

高木 由里子 (ペナン在住)

中国系マレーシア人の主人と結婚し、マレーシアで早10何年。今では4人の子供達の母親になりました。マレーシア人は教育熱心でほとんどの子供達が塾や習い事に通っています。幼稚園から試験があり、点数や成績順番が出ます。親も我が子の成績が少しでも上がるようにと小さいころから英会話教室、絵画教室、公文式、算盤、暗算教室、ピアノ等々習わせて毎日送り迎えだけでも忙しいです。

私は自分の時間も大切にしています。子供達を幼稚園や学校に送り出した後はヨガやボランティア活動をしています。お陰様でローカルのお友達もたくさんできました。ボランティア活動は、自閉症や多動障害、ダウン症、学習障害の子供達をサポートする団体で行っております。日本にいた頃、母がよくボランティアをしていましたが私はやったことがなく、あまり興味もありませんでした。最初は次男の為に始めたボランティアでしたが、時間が経つにつれ、私自身が少しでも人の役に立ちたいと思うようになり、毎週2,3日通っていますが、子供達との関わりを結構楽しんでます。ボランティアの仲間や保護者の方たちとは大家族みたいな一体感があります。皆さんが子供達の成長の手助けの為に日々努力しています。これもみな次男のお蔭だと思ふ今日この頃です。次男が学習障害児だと分かったのが3歳半の時。それからもう2年半経ちました。

次男は1歳半の時、我が家の池で溺れてしまいました。幸い一命はとりとめました。医者からは「将来後遺症が出るかもしれない」と言われました。でも日常生活には不自由もなく、特に気にもせず日々過ごしていました。ただ、言語発達の遅れを指摘されましたが、幼稚園にでも通えば自然に覚えるだろうと安易に考えていたの

です。3歳になってから幼稚園に通い始めましたが、何か月経っても幼稚園に行きたがらず、毎朝泣いてばかりいました。そのうち慣れるだろうとあまり気にしていませんでしたが、半年後のある日、幼稚園の先生に呼び出され、「息子さんは授業について行けず、理解もしていないようです。一人だけ教室をうろうろしていて他の子どもたちとも遊びません。もう私には教えられません。専門機関で診てもらってください」とさじを投げられたのです。すぐに医者で診てもらったら、言語発達の遅れを指摘され言語療法士を紹介されました。「学習障害」という言葉が頭に浮かび、インターネットで調べました。何故うちの子が…、

目の前が真っ暗になり、どうすれば良いのか分からず次男の将来が心配で眠れない日々が続きました。ある日、居眠り運転をしてしまい、もう少しで事故になりそうでした。ボーッと何も手につかず、食欲もなく、毎日涙がこぼれ、料理をする気力もなくなりました。

ある日、長男に「ママは毎日弟のことばかり構って、僕たちのことには無関心だ。それなら何で僕たちを産んだの？産まなければ良かったのに…」と言われハッとしました。このままではいけない。私が次男と一緒に一歩ずつ前に歩いて行かなくてはと思いました。それからは毎日、言語療法士、作業療法士、障害児のサポート団体など何か所も掛け持ちで通い始めました。マッサージやサプリメントなど、良いというものは何でも試しました。午前中は幼稚園に通



大好きな消防士姿

い、午後からは習い事の毎日…。車で片道1時間かかるペナン島に週3日通い、毎週日曜日はクアラルンプールの教室に飛行機で通っています。とにかくできることは何でもしました。最初は長男も文句を言っていました。最近では理解してくれているようです。

“ACS”には次男が3歳半の時に友達に紹介されて入りました。次男はACSが大好きで毎週楽しみにしていました。先生方は親切でとても熱心、遊びながら学ぶのがいいのです。去年、ACSを卒業して、今年から2階にある“BOLD”に通い始めました。BOLDではマレー語を習っています。幼稚園とは違うやり方で学ぶので、楽しそうです。家では中国語、幼稚園では中国語と英語を話しますが、マレー語はあまり話さないのが難しいです。BOLDでは、学習障害児にマレー語の発音の仕方から丁寧に教えています。小学校に入学する前に基本的なことが学べます。生徒のレベルに沿った指導なので小学校で授業について行けない生徒達も沢山通っています。最近の次男はとてもおしゃべりになり、音楽が大好きで車の移動中にCDやラジオの歌をよく歌います。幼稚園は1歳下のクラスですが、授業に何とかついて行けるようになり、友達もできました。よくビスケットやお菓子を一緒に食べているようです。来年の1月に小学校に入学する予定ですが、1年遅れの手続きになりました。小学校の授業について行ける学力には到達していないので、もう一頑張りです。特に字を書くのが苦手です。今、兄弟達と一緒に水泳教室に通っています。勉強だけでなく運動も大切だと思います。自転車もまだ補助輪付きで練習中です。

亀のように一歩一歩ゆっくりでも確実に前進しています。ゴールはまだまだ先だけどいつかはそこにたどり着けると思います。親子共々、二人三脚で歩んできたこの2年半。将来、笑って話せる日が来るのを夢見て、日々努力するつもりです。

半島ペナンで3年、サラワク州のクチンで2年半、シブで9年余りの生活と活動、この2年程はカピットにも行っている。こうして私は、マレーシア在住15年の歳月を過ごしてきたが、今号では、この地での「日常食」のスタイルや周辺事情について触れてみたい。

ペナンの時もそうであったが、シブ、あるいはカピットでも街部は早朝からケダイコピー（食堂）が、超満員。食べる人、働く人がごった返している。大衆食堂大繁盛。大体、麺類か、お粥、ロテチャナイというインド系パン（カレー付き）や、骨肉茶（バクテー）という骨付き豚肉をお茶で煮たものなどが朝のメニューという地域が多い。安価で、味の良い食堂には人が大勢集まっている。昼食になると、ナシ（ご飯）チャンブル（いろいろなおかずのミックス）が主流。麺類も昼食まで継続してやっているところが大半。店員は先ず飲み物の注文を取りに来る。紅茶やコーヒー、テータレ、豆乳など豊富。店によっては、トロピカルフルーツのジュースも注文可能。こうして食事時にはワイワイガヤガヤ、混雑の中でおしゃべりを楽しみながら食事をする。日常誰でもが行く、このような食堂には天井扇はあるが、エアコンはなく、テーブルや椅子もプラスチック製。前客が引き上げた後の片づけも恐ろしく早い。汚れたテーブルを布巾で一撫でといった感じである。客が増えれば、軒下と言わず庭と言わず、その辺一帯に次々テーブルを設置、雨が降ると取りあえず、みんなでぬれないところに退却、誰も文句は言わない。

こういう大衆的な食堂で、私がおいしいと思った食べ物のうち、麺類では、サラワクラクサ、コーミー、クイテオ、他にロテチャナイ、ナシチャンブル（おかずは3種類程度選べる）など。これらは飲み物を含めて、日本円で平均150円から250円で食べられる。こちらでは人と会ったら、好意を示す手段として、挨拶のように「何か食べよう」と言う。「どう？お

いしい？」と聞かれ、「おいしい」と答えると、彼らは誇りをもって、その料理の発祥地、民族の嗜好傾向など、日本人である私たちに説明してくれるのが常である。

余談になるが、先日、カピットで借りている事務所をもう1年延長したい旨、交渉に行った時、そのオーナーから例の如く、食事に誘われた。行きつけのレストランで彼が注文したのは、福建・福州（フーチャオ）のミーカンポア（田舎の麺）で、名古屋のキシ麺を思わせる麺であった。その発祥を説明してくれる時、彼の祖父は、中国本土からマレーシアに来た1世、父は2世、本人は3世であることを話してくれた。「祖父は亡くなるまで日本人が嫌いだ。父も今なお、その気持ちを変えることは出来ない。何故なら、理由なく日本人に攻められた第2次世界大戦の記憶が忘れられないからだ。しかし、それは過去のこと。今の日本人は、清潔、誠実、礼儀正しく、自分としてはとても好きなんだ」。その言葉を聞いた瞬間、過去のこととは言え、胸に伝わる申し訳なさを排除することはできなかった。この歴史的事実。一皿の麺から、思いがけず、今、外地で暮らす日本人の一人として私自らも、過去の歴史を払拭する生き様を実践しなければならないと学習したのである。

そう言えば、ロングハウスのトゥアイルマ・マイケルから、「第2次世界大戦の折、全ての食料を日本軍に持って行かれ、我々イバン族はジャングルでタビオカ（芋科）を採り、それを貴重な食糧として生き延びた」と聞いたこともある。「食べること、食べさせること」が生きる中でどれだけ大切か、大変な時代を乗り越えた現地の人たちの話や行動で「生きるための食」が理解できる。ロングハウスでは、会う人、誰にでも「ウダ・マカイ？（もうご飯食べた？）」と聞くのが挨拶である。うっかり「まだ」と答えると「マカイ・マカイ（食べなさい・食べなさい）」と家に招き入れられる。

周囲に食堂はないロングハウスのこと、家で作った唐辛子やニンニク、時には、豚肉や鶏肉、野菜の煮ものなどを小さい器に入れて進めてくれる。そんな日常から、この地では、少しのものでも分け合っていることに気づかされる。人との付き合い＝一緒に食べること、と言っても過言ではない。

トイボートプロジェクトのカピットでお付き合いする人々も同じである。何かと言えば、誘い合っただけで一緒に長時間を食事に費やす。食事中、様々な情報交換をし、にぎやかに笑い合う。

私は？と言えば、あらかじめ想定できる人数ならOK。しかし、急な訪問客や人数変更には対応しにくい。食材の購入や、テーブルセッティングに私なりの美学で拘ってしまうからだ。故に、ロングハウス風「マカイ、マカイ」は今のところ、我が家にとって大問題。つまり、融通がきかないというわけだ。およそ物事を地元の習慣第一にと考えたい夫の心情を押し量れば申し訳ない。

「あるものを気楽にみんなで分け合って食べる」というこの地域の食事スタイルを身につけるため、只今、簡単に作れる皿料理を研究中。みな様、ご協力を！



ケダイコピーの朝食風景



訪問したロングハウスでの分け合う食事

ACSだより Khor Ai-Na (中澤 健)

☆☆☆ 卒業式 ☆☆☆



腫れの卒業式に両親や家族と一緒に

ベナン州グルゴとセベランジャヤ(半島側のプランチ)の「First step」は、11月30日(日)、約100人の子どもと家族が集って Sunway Hotelで卒業式を行った。これは全部、Seberang Jayaの親たちが計画して行われた。今回の卒業生は総勢22名。偶々Gulugorと Seberang Jayaが11名ずつ。皆赤い

ガウンをまとうって素敵な卒業式を楽しんだ。卒業後の行き先は22人中20人が一般幼稚園。ACSは幼稚園と協力して「インクルージョン」と取り組んでいる。したがって、これからさまざまな形でFirst stepは幼稚園と関わることになる。2人は障害児通園(PDK)に通うことに。これからさらなる成長を!

年に2~3回はベナンのACSを訪ねたいと思いながら、今年、アイナさんの方からボルネオに2回来て貰った。実はベナンACSの好意でボルネオのRCSとはしっかり姉妹団体になった。ボルネオのRCSが去年から始めたトイボートのプロジェクトに2013年に早速、アイナ、ランリー、シンディが参加してくれたが、2014年は日本の全国社会福祉協議会がベナン

ACSに資金援助して下さり、トイボートプロジェクトを共同運営することが出来た。実際に3回に亘りテリー、シンディ、シャミーヤ、アイナがカピットからロングボートで1時間以上かかるロングハウスに重い障害の子らを訪ねることが出来た。このプロジェクトのことは、何れまとめて書きたいが、ACSとRCSと一緒に活動出来るのが嬉しい。



Toy boat プロジェクト・ACSとともに



RCSはいま 中澤 和代

☆☆☆ 新メンバー紹介とその他のできごと ☆☆☆

RCSは、現在、21人のメンバーが通って来ています。このコーナーで、その都度、新人紹介をしています。10月からビザという16歳の青年が来始めました。彼は、10人兄弟の真ん中に誕生したようですが、母親はまだ、44歳です。スポーツ万能で優しい彼は、ムヒバのスポーツ戦力希望の星です。ムヒバに来るようになって、仲間も彼自身もほんとに楽しそうに嬉しく思っています。ほかの8歳から11歳の子もたちも日々可愛く逞しく成長しています。

もう一つ、これは、メンバーのことではないのですが、ある日、RCSに行くと、一人のお年寄りがいました。前日に福祉局の前担当者(現在は高齢担当)から、ムヒバで一泊させてもらいたい人がいる

との連絡。ムヒバは宿泊を伴うケアはしていないのですが、困っている様子なので、引き受けたとのこと。夜間セキュリティのスタッフは夕食および、朝食を家から運び、Tシャツやパンツ、RM20を提供したとのこと。翌朝、福祉局から迎えの車が来て、その人は遠い住居地に戻って行きました。この件で思ったのは、福祉局前担当者はムヒバの事情や環境をよく知っているの、緊急一時保護の場所としてムヒバを思い浮かべたのではないのでしょうか。都市部にいくつかの施設があるにも関わらず、街から1時間もかかるムヒバを頼ってきたのは、ある意味、地域のムヒバとして誇らしいと思えました。また、そんな義務もない、誰に言われたわけでも

ないのに、親切に、一夜のお世話をしたセキュリティスタッフも素晴らしいと思います。今後も四角四面でない柔軟な気持ちで地域の役に立つ場所でありたいとみんなまで語り合いました。

ムヒバの門から続く道路が4回目、崩落しかけているのを発見。いつも雨季のこの時期が要注意です。早速、セメントや砂利を購入しみんなまで修理。これ以上の崩落にならないことを祈っています。



新メンバー・ビザくん

じやらんじやらん ちやり かん♪(32回)

南洋の派手な伊勢海老「ゴシキエビ」 上杉 誠



レーシア感覚ではかなりお高いのですが…) 茹でたものにソースを付けて食べたり、スパイシーに炒めたりバターソースに絡めて食べたりと料理方法も多彩です。

一度、違法操業のイセエビ網を回収した折には、たくさんのイセエビのおこぼれに預かったことがありましたが、マレー人の友人が作ってくれたキチャップマニス(マレー風溜り醤油)にレモンとチリパディ(辛〜い小さな唐辛子)を入れたソースに付けて食べたのが絶品でした。

もし、ボルネオでお正月を迎える機会があったら、ちょっと贅沢してゴシキエビを食べてみてはいかがでしょうか?長寿がやってくる前におの中一杯に幸せが広がる素敵な一年の始まりになりますよ。

jalan jalan cari kawan はマレー語で友達を探しに行こうの意味です。

さて、2015年を無事迎えることができました。新年に合わせてお正月らしい話題をひとつ。

お正月と言えばお節料理ですね。新年を祝うおめでたい縁起の良い料理を重箱に詰め、新年くらいは働かずこれを食べましようとする、素敵な日本の風習です。

以前ボルネオにいた頃に、友人たちと集まって日本から取り寄せた食材とマレーシアで手に入る食材をあわせながら工夫して、日馬合同お節料理を作った思い出があります。そんな料理の中で、一番存在感のあるのは大きな伊勢海老ではないでしょうか。

大きなエビは食べ応えもあり、美味しく食べられる人気者でもあります。最近が高価になってしまったため、小さめのクルマエビに取って代わられてしまっています。エビを入れるのは、長いひげと曲がった腰から、長生きの象徴とするもので、長寿を願って入れられています。また、エビの仲間には脱皮をして成長していくことから、再生と出世をも願うものとされています。

日本で見るとイセエビは、体全体が真っ赤な姿をしていることから、

お正月の縁起物とされていますが南洋の海に来てしまうと、一変、派手でカラフルな姿になってしまいます。南洋の島国ボルネオで良く見られるのは、ゴシキエビとニシキエビと言う二種類。名前からして派手そうですが、ゴシキエビは紺色基調に緑、水色、オレンジにピンクとまさに五色を呈したイセエビです。そして、ニシキエビは緑っぽい青をベースに水色と黄色をちりばめ長いひげが桃色と、錦で飾られている実際に派手派手なイセエビたちです。しかも彼らは日本のイセエビよりもかなりの大型。普通お目にかかることができるゴシキエビでも30cmは優に超え運が良ければ出会えるニシキエビに至っては、最大で60cmくらいまでなので食べ応えたっぷり。大きなものでは、僕の太ももくらいのもものを見たことがあります!これだけの大きさだったら、一匹だけで何人かがお腹一杯になれますね。

海に囲まれ海産物の美味しいボルネオでも、もちろんこのゴシキエビは食卓の人気者。クチンやコタキナバルなどのシーフードレストランでは日本よりもかなりお安く食べることができます。(とは言っても、マ

ACEからのお知らせ

10月に台風のため延期になった**ACE地方会in徳島**を下記の通り開催します。(徳島ともの会企画)

日程 2015年2月11日(水・祝日)

10時~16時

場所 徳島県立障害者交流プラザ

徳島市南矢三町2-1-59/徳島市営循環バス

お問い合わせ先 徳島ともの会事務局

Fax 088-699-5843

今年の**ACE総会**を6月13日(土)に開催することとなりました。**会場が例年とかわり**、下記の通りです。

場所 TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町8番地

TKP市ヶ谷ビル

3月発行予定の「ACEだより」で詳しくお知らせいたします。今から予定してくださって、是非ともご出席くださいますようお願いいたします。

編集後記

・2015年とはどんな年になるのでしょうか?こうなつては、という言い方も変ですが、「希望に向かう年にしよう!」と私は思うことにしました。2014年の漢字からも、世の中の印象は政治の方向にだぶって見えます。今号、奥地への電気の開発支援でそこに住む人々の環境も心も明るくなりました。一人の母親は、子どもの未来に希望をもって寄り添っています。明るい明日へと歩みを進めたいですね。(Kazuyo)

・体を動かして汗をかくのは気持ちが良い。特に人と一緒に働いて流す汗は、気持ちまで健康してくれる。「ムヒバ」の道路が雨季に崩れるのは頭が痛いみんなです。防的な補修が出来て気分の良い新年を迎えられる。平和に向かう2015年でありたい。飢えた子どもの居ない世界を願う。何も出来ないが、気持ちだけは紛争地の子らや貧しい子らに寄り添って、1年を過ごしたいと思う。冬来たりなば、春遠からじ。呉々もご自愛を。(Ken)